

敗戦国シリーズ

にんぎょめい

触手×アナル
×産卵プレイ

尊厳破壊
公開調教

本編8ページ

セリフ無しver高画質差分verあり



シエリンが
地下牢にとらわれて1か月
休むことなくシエリンが
肛門を開発されている間
敗戦した王国では帝国主導の元
改宗政策、軍備縮小等が行われ
着々と国力がそがれていった。

王室の解体も
その政策の1つだった。
王国民は帝国への抵抗を辞め、
敗戦による混乱は
一時的な終結を迎えていた。

人々が表向きに
帝国からの統治を
受け入れ始めた頃。
帝国側は民衆への
見せしめとして
シエリンを
民衆の前へと連れ出した。

今まで纏っていた
王国の豊かさを象徴する
優美なドレスは奪い去られ
身につけることが許されたのは
グローブとソックス、
股間を隠すための腰巻1枚だった。

その腰巻も、ただでさえ秘所を
覆い隠すには心許ない布地が
そよ風によってひらひらと舞い、
見え隠れする恥部に
かえって押しかけた王国民達の
視線を集めてしまった。

今まで受けてきた
地下牢での調教と違い
自分が王家として君臨してきた
自国の民の前に、
裸よりも恥ずかしい格好で
晒されていることに
耐えかね、うつぶいた。

王国都市部の
広場に用意された拘束台に
恥部を全て曝け出させるよう
計算された姿勢で
固定されたシエリンは、

その様子を見兼ねて、
帝国兵がシエリンの尻を
まるで家畜をあしらうように
乱暴に打ち鳴らす。

シエリンは
その刺激で王国民の前で
身を振り尻穴をヒクつかせると、
絞り出す様に民衆に向かって
声を上げた。

にんきびん

ふうっ

んんん

ザッ

やん

きゃん

うん

ぽっかりと口を開いた
肛門を見せつけるように
腰を前に目一杯突き出し、
集まった民衆に手を振りながら
挨拶をさせられるシエリン。

み…みなさまさ…
お集まりいただき
ありがとうございます

これからあ…
ツツ穴い…
ほほほ…

高貴な王族の娘の口から
発せられる下品な言葉や
自ら恥部を曝け出し、
帝国兵の前で作り笑いを浮かべる
その情けない姿は、
今まで忠誠を誓ってきた君主の失墜を
王国民に思い知らせるには十分過ぎた。

民衆への挨拶が済むと、
シエリンの股下に
大きな箱が運ばれてくる。

帝国兵が箱を開けると、
ぬらぬらと光る粘膜に覆われた
大きな触手が、
ゆっくりと這い出して来た。

その禍々しい姿に民衆はどよめいた。
その触手はこの日のために
特別に飼育、改良された品種。
太ましい体躯を持ち上げ、
すぐにシエリンの肛門を探し始める。

地下牢と違い、衆人環視
しかも自国の民に
見られているこの状況、
シエリンは触手の侵入を阻もうと、
必死に拘束台の上で腰を振るが、

その姿はあまりに滑稽で
帝国兵の嘲笑を誘うだけだった。

ひい!

挨拶

ぬらぬら

ち

ち

ち

触手はその織毛で
尻肉を掻き分け、
すっきり口を
閉じられなくなってしまった
シエリーンの肛門を見つけると

うっひああ!

時間をかけて丁寧に、そして強引に
開発されたシエリーンの肛門は、
押し広げられ、ぐりぐりゆとりと更に奥へと
その体軀を振じ込もうとしてくる
触手の動きに合わせ痙攣し、
本人の意に反して
快楽を生み出し絶頂してしまう。

性器からびゅるびゅると愛液を噴出させ、
拘束台に体を預け腰をくねらせる。
誰が見ても明らか、盛大なアクメー

まずは織毛を束ね、
ドリルの様に
肛門の中にそれを滑り込ませ
そして一気に
その太い体軀を振じ込んだ。

うっひああ!

うっひああ!
うっひああ!
うっひああ!

その姿を見た帝国兵は
すかさずシエリーンに
鞭を入れる。

思い出したかのように
シエリーンは慌てて、
大声で万歳を叫んだ。

帝国に占領された
この国では、
帝国兵によって
与えられるものは
全て敗戦国民への施し。

うっひああ!
うっひああ!
うっひああ!

シエリーンは
国を代表する者として、
帝国兵から与えられた
肛門調教による快楽と、
この出し物に対し、
謝辞を述べるよう
教育されて来たのだ。

うっひああ!
うっひああ!
うっひああ!

最後には、
触手の産みつける
卵の大きさは、
大男の拳程の
大きさになっていた。

しかしどんなに
大きくなろうと、
シエリーンの
緩みきった肛門は
卵を堰き止めることは
できない。

その動作はかえって
卵を外に押し出すことと
なっていまうー



もう押し戻せない
ことを悟り、
排泄をすれば
今度は絶頂

人間が生まれて初めて
味わう快楽—排泄行為。
それも、触手により
性器よりも敏感になった
肛門で行う排泄。

んほおお
んほおお

んほおお
んほおお

終わることのない帝国兵による
この公開肛門産卵プレイに
抗う術のないシエリーンは、
力なく呻き声を上げるだけ
になってしまった。



次々と出てこようとする卵を、押し戻すために息んで、ひり出して絶頂し、そしてまた触手が卵を産みつける。

広場の奥では、かつてシエリオンを妃として迎え入れようと申し出たがシエリオン本人によって拒絶された皇帝がその様子を見ていた。

あの時あの提案を受けていれば

そんな後悔すらする暇もなくシエリオンはこの広場のど真ん中で絶頂を晒し続けた。

敗戦国の女に選択肢はない隷属か、陵辱。

待ち受けているのはただ、その二つの運命。

この先もそれは変わることはない。

？

？

？







シエリンが
地下牢にとらわれて1か月
休むことなくシエリンが
肛門を開発されている間
敗戦した王国では帝国主導の元
改宗政策、軍備縮小等が行われ
着々と国力がそがれていった。

王室の解体も
その政策の1つだった。
王国は帝国への抵抗を辞め、
敗戦による混乱は
一時的な終結を迎えていた。

人々が表向きに
帝国からの統治を
受け入れ始めた頃。
帝国側は民衆への
見せしめとして
シエリンを
民衆の前へと連れ出した。

今まで纏っていた
王国の豊かさを象徴する
優美なドレスは奪い去られ
身につけることが許されたのは
グローブとソックス、
股間を隠すための腰巻1枚だった。

その腰巻も、ただでさえ秘所を
覆い隠すには心許ない布地が
そよ風によってひらひらと舞い、
見え隠れする恥部に
かえって押しかけた王国民達の
視線を集めてしまった。

今まで受けてきた
地下牢での調教と違い
自分が王家として君臨してきた
自国の民の前に、
裸よりも恥ずかしい格好で
晒されていることに
耐えかね、うつぶいた。

王国都市部の
広場に用意された拘束台に
恥部を全て曝け出させるよう
計算された姿勢で
固定されたシエリンは、

その様子を見兼ねて、
帝国兵がシエリンの尻を
まるで家畜をあしらうように
乱暴に打ち鳴らす。

シエリンは
その刺激で王国民の前で
身を振り尻穴をヒクつかせると、
絞り出す様に民衆に向かって
声を上げた。

シエリンが
地下牢にとらわれて1か月
休むことなくシエリンが
肛門を開発されている間
敗戦した王国では帝国主導の元
改宗政策、軍備縮小等が行われ
着々と国力がそがれていった。

シエリンが
地下牢にとらわれて1か月
休むことなくシエリンが
肛門を開発されている間
敗戦した王国では帝国主導の元
改宗政策、軍備縮小等が行われ
着々と国力がそがれていった。

シエリンが
地下牢にとらわれて1か月
休むことなくシエリンが
肛門を開発されている間
敗戦した王国では帝国主導の元
改宗政策、軍備縮小等が行われ
着々と国力がそがれていった。

シエリンが
地下牢にとらわれて1か月
休むことなくシエリンが
肛門を開発されている間
敗戦した王国では帝国主導の元
改宗政策、軍備縮小等が行われ
着々と国力がそがれていった。

シエリンが
地下牢にとらわれて1か月
休むことなくシエリンが
肛門を開発されている間
敗戦した王国では帝国主導の元
改宗政策、軍備縮小等が行われ
着々と国力がそがれていった。

シエリンが
地下牢にとらわれて1か月
休むことなくシエリンが
肛門を開発されている間
敗戦した王国では帝国主導の元
改宗政策、軍備縮小等が行われ
着々と国力がそがれていった。

ぽっかりと口を開いた
肛門を見せつけるように
腰の前に目一杯突き出し、
集まった民衆に手を振りながら
挨拶をさせられるシェリン。

み…み…な…ます…
お集まり…い…た…だ…キ
ありかと…こ…こ…い…ま…す

これからあ…
ツツ穴…い…い…い…
ほ…ほ…と…ま…ま…す

高貴な王族の娘の口から
発せられる下品な言葉や
自ら恥部を曝け出し、
帝国兵の前で作り笑いを浮かべる
その情けない姿は、
今まで忠誠を誓ってきた君主の失墜を
王国民に思い知らせるには十分過ぎた。

民衆への挨拶が済むと、
シェリンの股下に
大きな箱が運ばれてくる。

帝国兵が箱を開けると、
ぬらぬらと光る粘膜に覆われた
大きな触手が、
ゆっくりと這い出して来た。

その禍々しい姿に民衆はどよめいた。
その触手はこの日のために
特別に飼育、改良された品種。
太ましい体躯を持ち上げ、
すぐにシェリンの肛門を探し始める。

地下牢と違い、衆人環視
しかも自国の民に
見られているこの状況、
シェリンは触手の侵入を阻もうと、
必死に拘束台の上で腰を振るが、

その姿はあまりに滑稽で
帝国兵の嘲笑を誘うだけだった。

ひい!

挨拶…

ぬらぬら

ち

ち

触手はその織毛で、尻肉を掻き分け、すっきり口を閉じられなくなってしまった。シエリーンの肛門を見つけると、

うっひああ!

時間をかけて丁寧に、そして強引に開発されたシエリーンの肛門は、押し広げられ、ぐりぐりぐりと更に奥へとその体躯を振じ込もうとしてくる。触手の動きに合わせ痙攣し、本人の意に反して快感を生み出し絶頂してしまう。

性器からびゅるびゅると愛液を噴出させ、拘束台に体を預け腰をくねらせる。誰が見ても明らか、盛大なアクメー

まずは織毛を束ね、ドリルの様に肛門の中にそれを滑り込ませ

そして一気にその太い体躯を振じ込んだ。

うっひああ!

うっひああ! うっひああ!

その姿を見た帝国兵はすかさずシエリーンに鞭を入れる。

思い出したかのようにシエリーンは慌てて、大声で万歳を叫んだ。

帝国に占領されたこの国では、帝国兵によって与えられるものは全て敗戦国民への施し。

あ♡ ばいばい... 帝国

シエリーンは国を代表する者として、帝国兵から与えられた肛門調教による快楽と、この出し物に対し、謝辞を述べるよう教育されて来たのだ。

うっひああ!

うっひああ!

うっひああ!

絶頂の波が引かないまま、
触手はシエリソンの肛門に
勢いよく産卵を始めた。

他の品種と違い、
肛門内に無精卵を産みつけるよう
品種改良されたこの触手は
直腸内の環境に合わせ、
適した大きさの卵を産みつける。

無慈悲に体内に
産みつけられていく卵
今まで感じたことのない
感覚でさえ、
性快楽へと変換してしまう
直腸に戸惑いながら、
シエリソンの腹部は
みるみる膨れて行った。

十分に卵を産みつけ満足した触手は
肛門からその体躯を引き抜く。
異物を引き抜かれる際の快楽で
絶頂してしまわぬ様瀬戸際で耐える
シエリソソ。

敏感になった肛門に、
産み付けられた卵が下りてきてしまう。
これ以上絶頂しまうと、
卵を直腸内にとどめようとするが、

拡張され切った肛門は、
卵のツルツルした表面を
締め上げて押し戻すことはできず
少しずつ溢れ出して来てしまふ。

肛門に力を含めようと
足掻くシエリソソだったが

それでも必死に
これ以上の恥辱は
重ねまいと、

...

民衆に聞こえる様に、
施しを受けた感謝の言葉と、
折角産みつけてもらった卵を
無駄にしてみましたことへの
謝罪をするシエリン。

ぜんぜんぶが...
お返し...
お返し...
お返し...

もお一回...
お願い...
お願い...
お願い...

そして
浅ましく施しをおかわりするよう
命じられたシエリンは
もはや従順にその命令を
聴き入れるしかなかった。

シエリンからの
懇願を受ける
という形で

触手による
卵の産みつけは
何度も行われた

お返し...
お返し...
お返し...

しかし何度行おうと、
シエリンの緩み切った肛門は、
卵を勢いよく吹き出して
しまうだけだった。

帝国兵はその姿を面白がって、
出来るだけ前へ飛ばせと命令した。
快樂で脳まで蹂躪されたシエリンは、
ただただその命令を遂行し、
民衆をさらに落胆させた。

何度産みつけても
体内から出て来てしまう卵。
それを学習した触手は、
その直腸の環境に合わせて、
産みつける卵を
変化させていった。



最後には、
触手の産みつける
卵の大きさは、
大男の拳程の
大きさになっていた。

しかしどんなに
大きくなろうと、
シエリンの
緩みきった肛門は
卵を堰き止めることは
できない。

その動作はかえって
卵を外に押し出すことと
なってしまうー



もう押し戻せない
ことを悟り、
排泄をすれば
今度は絶頂ー

人間が生まれて初めて
味わう快楽ー排泄行為。
それも、触手により
性器よりも敏感になった
肛門で行う排泄。

んっ
おっ
おっ
おっ

んっ
おっ
おっ
おっ

終わることのない帝国兵による
この公開肛門産卵プレイに
抗う術のないシエリンは、
力なく呻き声を上げるだけ
になってしまった。



次々と出てこようとする卵を、押し戻すために息んで、ひり出して絶頂し、そしてまた触手が卵を産みつける。

広場の奥では、かつてシエリオンを妃として迎え入れようと申し出たがシエリオン本人によって拒絶された皇帝がその様子を見ていた。

あの時あの提案を受けていれば――

そんな後悔すらする暇もなくシエリオンはこの広場のど真ん中で絶頂を晒し続けた。

やあやあ

敗戦国の女に選択肢はない隷属か、陵辱。待ち受けているのはただ、その二つの運命。

あらうん

この先もそれは変わることはない。

あー

？

♡

